

助け**合**い

おたすけ本 In 彦根

もちつ もたれつ おたがいさん



社会福祉法人 彦根市社会福祉協議会

「見守り合い」から「助け合い・支え合い」へ

「困ったときはおたがいさん」の思いを形にしていくために、地域でのサロンや子ども食堂、一人暮らしの方への見守り訪問、防災・福祉マップづくりや見守り会議など、彦根市内ではさまざまな「見守り合い」の取り組みが行われています。

こうした見守り合いを通して、私たちが暮らす地域には、誰かの助けをちょっと借りれば解決できる“困りごと”がたくさんあることがわかってきました。

とはいえ、ご近所付き合いが少なくなっている現在は、この“誰か”がいなくて、「助けて」と言えないままになっていることも多いのが実情です。

ちょっとした困りごとを放っておかずに地域のみんなで取り組む「助け合い・支え合い」の活動が広がっていくように、この冊子が活用されることを心より願っています。



この冊子は、赤い羽根共同募金の助成金を活用して作成しました。
赤い羽根共同募金は『自分のまちを良くするしくみ』として、地域の福祉活動に使われています。



いつまでも自分らしさを大切に、
助け合いながら共に生きてゆこう。
互いの暮らしや生き方を認め合い、
おたがいさんで支え合おう。

目次

- ◎ 「見守り合い」から「助け合い・支え合い」へ 1
- ◎ 目次 2
- 1. 実は日々の暮らしの中にある 助け × 助けられの “おたがいさん”
 - ◆ 「おたがいさんや」「困ったら助けてって言える大好きな町」
城陽学区 三津屋町 3
 - ◆ 見守り合いから助け合いへ ～福祉推進員の活動から～
佐和山学区 湖上平地蔵町 4
 - ◆ 困っている人をほっとかない「助けて」が言いやすいまちに
城西学区 尾末町 4
- 2. 彦根には、“頼まれたら助けたい” 人がたくさんいます 5
- 3. 助けを求めてもいいんだよ!みんな、一緒に生きている 5
- 4. 助け × 助けられ おたがいさん度チェック 6
- 5. ひろがる輪 ～お知り合い・見守り合い・助け合い・支え合い～ 7～8
- 6. ふだんの見守り合いにプラスして... ～彦根の助け合い活動～
 - ◆ 普段の見守りからちょっと手助けへ
～見守り愛 絆の取り組みから～
若葉学区 日夏ニュータウンⅡ期自治会 9
 - ◆ 「できる人が」「できる時に」「できる事を」
～ボランティアグループきずなの取り組みから～
稲枝東学区 稲部町自治会 10
 - ◆ 困ったこと、できることをつなげる思いやり
～学区で進める「たすけあい鳥居本」の取り組みから～
鳥居本学区 11
- ◎ 助け合いの風土形成に期待! (岡野委員長コメント) 12
- ◎ 『助け合いおたすけ本 In 彦根』作成にあたりご協力いただいた方々 12
- ◎ 地域の活動を応援します! ～お役立ち情報あれこれ～ 13～14

1. 実は日々の暮らしの中にある 助け×助けられの“おたがいさん”

「あなたは助け合って生きていますか?」と問われて、「はい」と即答できる人はさほどいないでしょう。

間をあけて「よくよく考えてみると助け合ってるのかな」「いろんな人にお世話になってるわな」などと声が聞こえてきます。「助け合い」は、それほど無意識なものです。

家族、友だち、学校、職場、ご近所など、気づけば私たちの身近な暮らしの中に、「困った時に助けてもらっている」、「身近に困っている人がいたら助ける」という“おたがいさん”の助け合いは育まれています。

この彦根にもたくさんの“おたがいさん”の助け愛♥があふれています。



「おたがいさんや」「困ったら助けてって言える大好きな町」

～城陽学区 三津屋町～

近所や町全体で仲が良い三津屋町。出会ったらあいさつはもちろん、それにプラス one して声を掛け合うことが当たり前です。

おたがいに気に掛け合って、尊重し合って、見守り合って、助け合って、感謝し合って、暮らしの中に“おたがいさん”があふれています。

そして、普段の関係から SOS を発信することとても得意な町です。気づいたら隣の人が畑に水を撒いてくれている、採れた野菜のやり取りは当たり前、外作業で熱中症になっていた家族の体調変化に気づいて知らせてくれた、けがをしたらすぐに飛んできてくれた、そしてしばらく生活を助けてくれたと、たくさんの助け合いと温かい気持ちがあふれています。



気軽に“助けて”って言って皆に助けられているのよ

▲ お話を伺った仲良しご近所の皆さん

見守り合いから助け合いへ ～福祉推進員の活動から～

～佐和山学区 湖上平地蔵町～

湖上平地蔵町では、福祉推進員さんが定期的に高齢者宅を訪問して様子を伺っておられます。

こちらの男性は介護保険サービスを受けられていますが、サービスが入っていないところを、福祉推進員さんが訪ねて、ちょっとしたお手伝いや会話をされています。

湖上平地蔵町自治会では、3ヶ月毎に「見守り会議」を開催しています。参加者は、自治会長・民生委員・福祉推進員。外部からは、地域包括支援センター(高齢者の相談窓口)の職員さんや彦根市社会福祉協議会の地域支え合い推進員が入って、見守りの状況を共有しながら、必要な支援を検討しています。このようなしくみがあると、高齢者の一人暮らしでも、“住み慣れた地域”で少しでも長く暮らせるのではないのでしょうか。



本当にありがたいと喜んでおります。

▲ 福祉推進員さんの訪問の様子

困っている人をほっとかない「助けて」が言いやすいまちに

～城西学区 尾末町～

彦根城の近くに位置する尾末町では、向こう三軒両隣のお付き合いが残っています。

助け合いを組織的に行うのではなく、日頃の見守り合いから気になること、困りごとを、おたがいさんの助け合いでサポートされています。

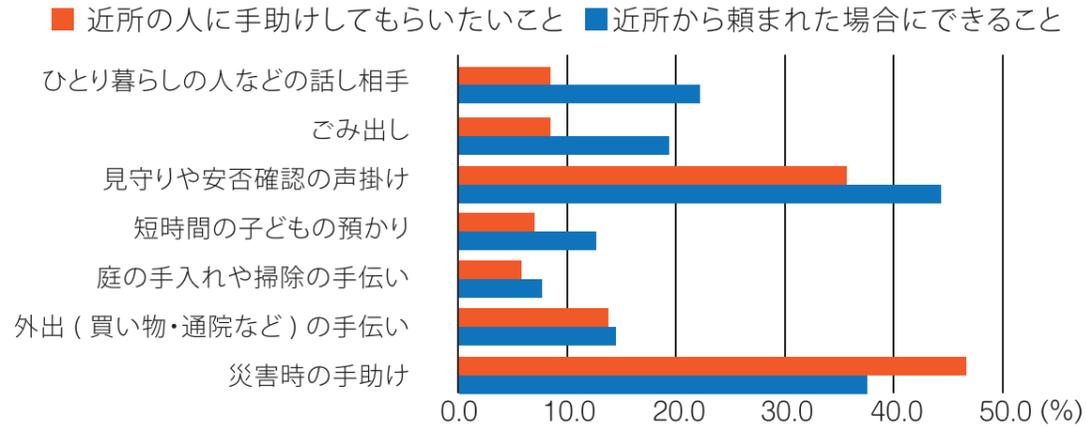
身内がない高齢女性の看取りまでの寄り添い、一人暮らし高齢者の通院時の送り出しのサポート、入院中で留守宅の見回りなど、本人や遠くに住むご家族からの SOS が聞こえてきます。「困っている人をほっとけない」というおせっかい焼きさんがたくさんいる地域で、「助けて」の声にアンテナを張っておられます。見守る側でサポートしている人も高齢で、別の場面では支えられていることも…。そんな「助けたり」「助けられたり」の当たり前の関係があります。今後、見守り合い・支え合える土壌が広がっていくよう、自治会として SOS が言いやすい体制づくりに取り組まれています。



助けたり助けられたり

2. 彦根には、“頼まれたら助けて”人がたくさんいます

第2次彦根市地域福祉計画アンケート (H29.3) Q17、Q18より一部抜粋



平成29年度彦根市社会福祉大会の講演で、講師の酒井保さんが「周りの人に『助けて』って言えますか?」と聴講者に尋ねられたのですが、会場はシーンとなりました。助けを求めることって、なんだか躊躇してしまいがちですね。

しかし、上の「第2次彦根市地域福祉計画」のアンケート調査では、ほとんどの項目で「近所から頼まれた場合にできること」が「近所の人に手助けしてもらいたいこと」を上回っていました。つまり、“頼めば”ほとんどの人が助けてもらえるということになります。

助けてほしい気持ちは多くの方が持っていますが、頼まれてもいないのにすすんで助けるのは、やっぱり遠慮してしまいがちですね...

困ったことがあったら
いつでも言うてや。
知らん顔
できませんねん!



3. 助けを求めてもいいんだよ！ みんな、一緒に生きている

私たちは、幼少期から「できることは自分でしなさい」と育てられ、自立できるようになりました。しかし誰もが、自分一人ではできないことがあり、病気やケガ、老化、環境の変化等によって、さらに助けが必要になることがあります。

もし、頑張りすぎている自分や周りの人がいたら、「できないことやできなくなったことは助けを求めてもいいんだよ」と伝えてあげてください。

そして、いざという時のためにも、ふだんから支え合えるつながりを大切に育てておきましょう。



4. 助け×助けられ おたがいさん度チェック

最も近いものに○をしてそれぞれの合計点数を出してみましょう。自分の主観で大丈夫。思ったとおりに進んでみましょう！今まで気づけなかった自分が見つかるかも...



① 自分のことを頼りにしてくれている人がいると思いますか？

- A. いると思う。 **2点**
- B. もしかしたらいるかもしれない。 **1点**
- C. いないと思う。 **0点**

② 自分は「世話焼きさん」だと思えますか？

- A. 「世話焼きさん」だと思う。 **2点**
- B. よくわからないが、「世話焼きさん」の素質はあると思う。 **1点**
- C. 「世話焼きさん」ではない。 **0点**

③ 自分とは違う“暮らし”や“生き方”についてどう思いますか？

- A. 理解しようとし、認め合えることが多い。 **2点**
- B. 理解できないことが多い。 **1点**
- C. 理解しようとしない。 **0点**

④ 困っている時に手を貸してもらったら、どうすることが多いですか？

- A. 助けてもらい、笑顔で「ありがとう」「おおきに」と言う。 **2点**
- B. 助けてもらい、申し訳なさそうな顔で「すみません」と言う。 **1点**
- C. 「結構です」とお断りする。 **0点**

⑤ 隣近所や同じ町の人との交流について、どうですか？

- A. 自分のことを知ってもらってるし、ふだんから交流もある。 **2点**
- B. これといった交流はないが、出会えば挨拶や会釈は交せる。 **1点**
- C. 自分のことは知られていないし、周りのことも知らないし、挨拶もしない。 **0点**

⑥ いざ困った時に、どうすることが多いですか？

- A. 家族以外にも相談できる人が近く(隣近所・地域)にいて、駆けつけてくれる。 **2点**
- B. 家族以外で相談できる人や駆けつけてくれる人はいない。 **1点**
- C. 誰にも相談できず、一人で抱え込んでしまうことが多い。 **0点**

計 点

**が多いあなた
助け上手さん**

あなたのおかげで救われている人がいます。これからも、相手の誇りを大切にしましょう。そして、少しずつ助けを求める経験も増やしていきましょう。

計 点

**が多いあなた
助けられ上手さん**

病気やケガで急にできないことが出てきたときも大丈夫！これまでどおり感謝の気持ちを大切にしていきましょう。さらに周りに困っている人がいたら、ちょっとした声かけや見守りをしていましょう。

5. ひろがる輪 ～お知り合い・見守り合い・助け合い・支え合い～

相手が誰だかわからないと助けることも助けられることもできませんよね。
まずは、顔なじみの関係づくりからはじめてみましょう！
信頼関係ができていくと、見守り合い、助け合い、支え合いの“輪”へと広がっていきます。

“おたがいさん”で暮らしの安心を



福祉委員が、日常のちょっとした困りごとを受け止めて活動されています。ゴミ出し、病院の送迎、お買い物のお手伝い、おかずのお裾分けなどの他、「電球がきれた」「網戸が外れた」「インターホンが鳴らない」など、暮らしの中にはちょっとした困りごとが出てきます。ご近所同士の日頃のつながりがあり、自然な支え合い活動が行われています。
千原福祉委員会（城北学区）

「みんなに会いたい」気持ちに応えて



サロンへの行き帰りで車いすを利用している方の介助を参加者間で行ってられます。
月2回のサロンで、参加者は顔なじみの皆さんに会えるのをとても楽しみにされています。しかし、徐々に会館まで歩いてくるのが難しい人の増加が課題となっていました。そこで、車いすを準備し、参加者同士でのお手伝いを開始されました。
平田大沢 清草会(平田学区)

支え 合い

「困った時はたのみます」
「おたがいさんに、こちらこそ」

助け 合い

見守り 合い

「ちょっと手貸して」「ええで」
日々の暮らしの助け合い

はじめは、あいさつから
「おはようございます」
「こんにちは」
顔なじみの関係を！

お知り 合い

地域の中の集まりの場
井戸端会議、サロン・・・

「あれ？なんかいつもとちがう」
散歩ついでにさりげなく見守り

災害時・・・
「大丈夫か？一緒に避難しよう！」
「あー助かった。一人で不安やった」

心がつながる関係
「あなたになら話せる」
「あなたがいてくれてよかった」

「夜回り」で地域の安全を守っています



中央町内会で月2回、二つのグループに分かれ、「火の用心」と声をかけながら、拍子木を鳴らし町内のパトロール。商店街は変わりつつありますが、住民の「見守り合い」は若い人にも引き継がれ継続されています。

中央町内会(城東学区)

「サロンに参加のみなさんどうしているのかな？」 「元気で過ごされているのかな？」



新型コロナウイルス感染予防のためサロンが中止になり皆さんと会えなくなりました。「筍ご飯を届けたい」とボランティアさんの思いから、サロン参加者だけでなく、「地域の一人暮らしの高齢者にも届けられるといいな」と、自治会長、民生委員、福祉委員と協力して届けることができました。

“これからもよろしく”とお互いさんの新しいつながりがひろがりました。

原西団地ボランティアグループ(佐和山学区)

6. ふだんの見守り合いにプラスして… ～彦根の助け合い活動～



「近所には高齢者が増えてきて、助けてほしくても助けてくれる若者が少なくなってきた」「家族がいないから、ちょっとしたことで困る」という地域が増えていきます。令和2年8月現在の彦根市内の高齢者の独居世帯は6,649世帯で、世帯全体の13.7%を占めています。

一方で、「今の時代、手助けするとおせっかいと思われてしまうからできひんわ」という声も聞かれ、ちょっと声をかけることすら遠慮がちになっているのが実情です。

こうしたなか、「困っている人を放っておけへん!」「他人事じゃなくて、近い将来の自分事や」という思いで、助け合い・支え合いの活動を実践している自治会や学区が彦根市内で少しずつ増えてきています。



普段の見守りからちょっと手助けへ

～見守り愛 絆の取り組みから～

新興団地として形成してきた自治会も近年は高齢世帯の増加に伴い、日常生活の困りごとが少しずつ増えてきました。地域で見守り合いの大切さが聞こえてくるようになり、住民の話し合いの中から「見守りながらちょっと手を差し伸べよう」「自分たちでできることはないか」と、身近なところから声を上げ、ちょっとした手助けする取り組みをご近所同士から始めています。

★対象地域データ★

R2.4.1 現在
日夏ニュータウンⅡ期自治会
(若葉学区)
人口：306人
世帯数：146世帯
高齢化率：36.6%



話し合い

実践、活動へ

草むしり

買い物
送迎

病院受診
同行

～立上げまでの経緯～

平成28年：見守り会議にて地域の困りごとや見守りの仕組みづくりについて協議



平成29年：自治会の中で手助けが必要な人をマップ上に印し、住民同士で気に掛け合い見守りを進めることを目的とした「支え合いマップ」を作成



平成30～31年：ちょっとした手助けが必要な人へ助け合い活動を始めていくにあたり、住民からの聴き取りやアンケートを実施。必要な手助けの内容、中身を整理する。



令和2年7月：自治会単位での生活支援の取り組み「見守り愛 絆」立上げ。自治会内の住民が抱える困りごとを住民同士で手助けする活動がスタート。

「できる人が」「できる時に」「できる事を」 ～ボランティアグループきずなの取り組みから～

稲部町では、町民が住み慣れた地域でいつまでも住み続けられるよう、ひとり暮らしの高齢者、または高齢者のみの世帯に対して、日頃の生活における困りごとを手伝いたいという思いから令和元年10月より、生活支援の取り組みが始まりました。

～立上げまでの経緯～

サロンに來れず、福祉サービスも利用せず、家庭内で孤立している人はいないだろうか…?

実態調査：令和元年5～6月実施
調査対象：災害時の支援を申請している高齢者
調査方法：戸別訪問による聴き取り

★対象地域データ★

R2.4.1 現在
稲部町自治会 (稲枝東学区)
人口：520人
世帯数：223世帯
高齢化率：31.7%



生活支援内容(例)

- ☆ 話し相手、ゴミ出し、草刈り、除雪
- ☆ 買い物、通院の送迎

活動時間：平日9時～16時
活動費用：屋内200円、屋外300円 (30分単位)
自動車使用の場合は20円/Km加算



毎月2回発行する『きずなだより』で、困りごとの相談をお受けしたり、情報発信しています♪

ボランティア活動
資金の確保手段

- ・資源回収 (アルミ缶金属回収)
- ・広報配布
- ・各種助成金の活用

実態調査結果

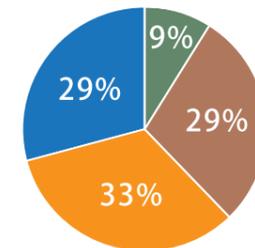
家族構成

一人暮らし(7)、二人暮らし(9)、その他(5)

困りごと

通院(6)、除草(3)、電球交換(3)、買い物(2)
ゴミ出し(2)、散髪(2)、掃除(2)

依頼の有無



- 依頼する
- 内容により依頼する
- 依頼しない
- わからない

生活支援の実態調査のお願い

稲部町の皆さまには、ボランティアグループ「きずな」の活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
ボランティアグループ「きずな」では、平成26年度より、町民の皆さまの居場所づくりとして各種サロンを開催させていただいており、定期的に町民が触れ合える皆さまの居場所としてご活用いただいております。
こうしたサロンは、健康、交流、ふれあいをテーマに、今後到来する超高齢社会を見据えた介護予防としての活動、居場所づくりであり、比較的健康的な方を対象にしています。
しかしながら、サロンに行きたくても行けず、日常生活において、困りごとがあり、安心して暮らせないとお悩みの方がおられるのであれば、ボランティアグループ「きずな」として、少しでもお手伝いすることで安心して自分の家でお暮らしいただけるのではないかと考えております。
つきましては、自治会に災害時に支援を申請されておられる世帯を対象に、生活実態を把握するための調査を実施することいたしました。
大変お忙しいところ恐縮存じますが、何卒ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和〇年〇月

ボランティアグループ「きずな」代表 西野達夫

【このアンケートについて】

・このアンケートは、災害時要支援者の申請者を対象にボランティアグループ「きずな」の戸別訪問による調査です。
・ボランティアグループ「きずな」による生活支援以外に使用することはありません。
・ご記入いただきましたら、令和〇年〇月〇〇日(〇)頃に回収に伺います。

【問1】ご自身についてお聞かせください。

名前	彦根市稲部町 番地
住所	彦根市稲部町 番地
年齢	歳
同居の有無	①一人暮らし ②二人暮らし ③近くに子どもがいる
自動車の有無	①保有している ②保有していない
免許の有無	①保有している ②保有していない ③返納した

【問2】 日常生活でお困りのことは何ですか。次の中から該当するものをすべてお選びください。

①通院 ②買い物 ③ゴミ出し ④散髪・美容院 ⑤選挙など手続 ⑥金融機関 ⑦炊事 ⑧洗濯 ⑨掃除 ⑩除草 ⑪電球交換 ⑫その他()
--

【問3】 日常生活での困りごとにお手伝いしてもらえる人がおられますか。次の中から該当するものをすべてお選びください。

① 親族 ② 親戚 ③ ご近所 ④ 友人 ⑤ 頼る人がいない ⑥ その他()
--

【問4】 外出する時の交通手段は何ですか。次の中から該当するものをすべてお選びください。

① 自動車 ② バイク ③ 自転車 ④ 徒歩 ⑤ タクシー ⑥ あいのりタクシー ⑦ バス ⑧ その他()

【問5】 ボランティアグループ「きずな」が、困りごとのお手伝いを有料(ガソリン代、30分100円など)で受けたら、依頼されますか。

① 依頼する ② 依頼しない ③ 内容により依頼する ④ わからない ⑤ その他()
--

ご協力ありがとうございました

困ったこと、できることをつなげる思いやり

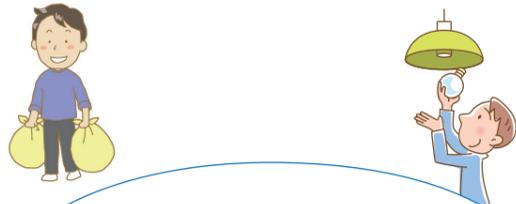
～学区で進める「たすけあい鳥居本」の取り組みから～



普段、暮らしの中で困っていることや「ちょっとお手伝いしてほしいな」と思うことはありませんか。

そんな声に応えようと鳥居本学区では、お隣さんやご近所さんとの身近なつながりを大切にしながら、学区としては市内で初めて暮らしのちょっとした困りごとを住民同士が助け合う活動が立ち上がりました。

自治会単位の枠組みを超えて、学区として広く、地域に根差した助け合いの活動を進めています。



電球交換や庭の草むしり、高いところにあるものを取ってほしいなど、住民の身近な困りごとなど住民の“オモイ”が“カタチ”になり、助け合い、支え合いの意識を広げていこうという活動です。

★対象地域データ★

R2.4.1 現在

鳥居本学区

人口：2518人

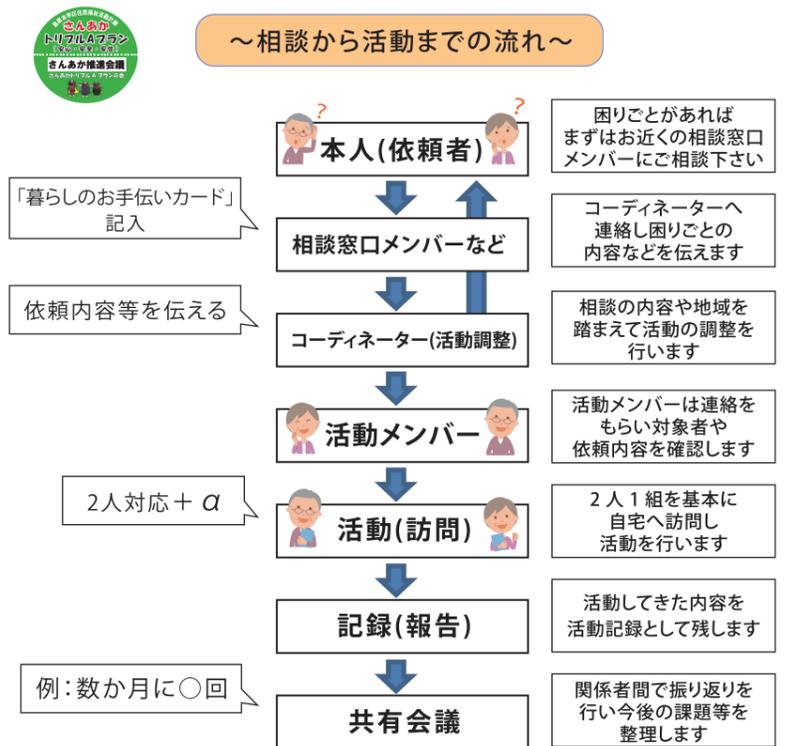
世帯数：1137世帯

高齢化率：34.8%



たすけあい 鳥居本

～相談から活動までの流れ～



困りごと受付から実際の活動までのフロー図

助け合いの風土形成に期待！

「助け合いおたすけ本 In 彦根」は、助け合いの風土が無意識のうちに広がっていく格好の手引書です。

今日の社会は少子高齢化と人口減少のさなかにあります。それだけではありません、家族の人数も減ってきて二人暮らしや一人暮らしの人も増えてきています。そして高齢者の数も増えています。新しく作られた地域ではお互い見知らぬ関係の人も多いと思います。

高齢者は増え、若者が少なくなる中で、地域社会を支える唯一の原動力は、互いに支え助け合うことが自然にできる風土であり、そういう社会こそ、新しい世代を再び育み育てていくことができる社会にもなるのです。

その手がかりになる地域の様子が描かれているのがこの本です。つまりこの本は将来の彦根市を育てていくための格好の手引書でもあるのです。みんなで読んで日頃の生活に役立てていくだけで、彦根のまちがさらに住みやすいまちになることは間違いありません。

自然が豊かで活気もある彦根、そして心豊かな人々が住んでいる彦根、そこは住んでよかったと思えるまち彦根市です。

彦根市地域福祉推進委員会委員長 岡野 英一



『助け合いおたすけ本 In 彦根』作成にあたりご協力いただいた方々

表紙写真提供	小林伊三夫さん
P3	城陽学区 三津屋町のみなさん
P4	佐和山学区 湖上平地蔵町のみなさん、城西学区 尾末町のみなさん
P7～8	平田学区 平田大沢 清草会 城東学区 中央町内会 佐和山学区 原西団地ボランティアグループ 城北学区 千原福祉委員会
P9	若葉学区 日夏ニュータウンⅡ期自治会「見守り愛 絆」
P10	稲枝東学区 稲部町自治会「ボランティアグループきすな」
P11	鳥居本学区 「たすけあい鳥居本」
裏表紙写真	稲枝北学区安全・安心まちづくり協議会、小泉町安心安全助け合いパートナー 小泉町のみなさん、千原福祉委員会、たすけあい鳥居本

地域の活動を応援します！

～お役立ち情報あれこれ～

地域支え合い推進員

市内の小学校区に、生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)がいます。地域の困りごとを把握し、必要な取り組みを住民のみなさんと一緒に考え、暮らし続けられるための地域づくりを行います。

住民主体による
地域を元気にする
協議体づくり

地域や専門機関など
関係者との連携と
支え合いの
ネットワークづくり

地域の活動や
社会資源の把握と
見える化

住民同士の助け
合い・支え合いの仕
組みづくりを、「つな
ぐ」プロの私たちが
お手伝いします！



みなさんの暮らし
の場に出向きます。
お気軽にお声かけく
ださい。

“見守り合い”から “助け合い・支え合い”へ

「見守り合い活動推進助成」

普段の見守り合いから“最近気になること”、“地域で出来る助け合い”の仕組みづくりや場づくりを、一緒に考え、応援します。

- ① 見守り合い活動推進費
上限5万円(1回のみ)
※2回まで分割での申請可
※サロン・見守り訪問・移動支援(買い物
同行)等の見守り合い活動の推進・拡充

- ② 見守り会議
開催1回につき2千円
※助成は月に1回を上限
※開催頻度は、3か月に
1回は行うこと



みんなで楽しく学ぼう！

出前講座 「学びの宅配便」

“身近な地域での出会いと学びを通じて共に生きる地域づくり”をコンセプトに、社協職員による福祉や防災の出前講座を行っています。

メニュー

1. 地域見守り合い
2. 認知症・介護予防・介護保険
3. 福祉懇談会
4. 子どもの居場所
5. 防災
6. 共同募金のイロハ
7. 消費者被害
8. 障がい



▲ 出前講座の様子

～移動外出支援車両～ おたがいさんさん号

病院への通院や買い物送迎、子ども食堂送迎など福祉目的での使用に貸出しています。(50キロ以下無料)。サイドリフトアップシート(足の不自由な方などのために、自分でボタンを押して手でシートに座れる機能)が付いています。お気軽にご利用ください。

- ・トヨタ「ノア」7人乗り
- ・ナビ付き
- ・ドライブレコーダー付き
- ・サイドリフトアップシート



NEW 軽トラの貸出し

自治会が取り組む地域活動や防災訓練などに貸出することで「助け合い・支え合い」の地域づくりを推進します。車いすの運搬や草刈り、清掃後のゴミの運搬など、地域での活動にご活用ください。



・スズキキャリイKX



もしもの時に備えに・・・ ボランティア保険

安心して活動できるよう、ボランティア活動中のケガ等が補償されます。社会福祉協議会が加入手続きの窓口になっています。詳細はお問い合わせください。

ふくしのまちづくり 応援グッズ

地域での住民の生活を豊かにし、元気な生活を応援するとともに、生活支援の一環とすることを目的として、地域のつながりづくりや子育て応援グッズなどの貸出を行っています。ぜひご利用ください。貸出期間など、詳しくはお問い合わせください。

貸出物品(一例)

- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・上腕血圧計
- ・車いす
- ・マイクセット
- ・非接触型体温計
- ・チャイルドシート
- ・ベビーカー



※車両およびグッズのご利用には要件があり、事前の申請が必要です。

情報発信(冊子・SNS)

地域にある様々な見守り合い・助け合い活動の取組事例を発掘し、随時発信しています。



このページのお問い合わせは・・・

社会福祉法人 彦根市社会福祉協議会
彦根市平田町670
彦根市福祉センター別館
TEL:0749-22-2821 / FAX:0749-22-2841



令和2年(2020年) 12月発行
編集・発行/社会福祉法人 彦根市社会福祉協議会
【TEL】(0749)22-2821 【FAX】(0749)22-2841
彦根市平田町670 彦根市福祉センター別館1階